

# さんけん新聞

発行  
特別認定NPO法人  
三段峡—太田川  
流域研究会  
(代表・本宮炎)

〒731-3813  
広島県山県郡  
安芸太田町  
柴木1734  
090-34213046  
◇  
<https://sanken-hiroshima.org/>

## 一口メモ

▼例年以上  
七月は長梅雨、八月は一転猛暑。長淵は例年以上に多くの人が涼を求めたり、川遊びを楽しんだりして賑わった。コロナ禍でプールや海水浴場が閉鎖になった影響もあったのだろう。  
大雨や台風で峡内に被害が出るのは常。加えて感染症が気掛かり。秋が予測できない。

## 環境指標の魚種を探る

### 指導の内藤さん「完璧な川 貴重な場所」

#### 峡内各所で魚類調査

環境省希少野生動物種保存推進員で、「太田川水族館」の著者である内藤順一さんの指導を受けて八月の四日間、長淵、黒淵、二段滝、三段滝など峡内各所で魚類などの生息調査をした。河川環境のモニタリングが目的のII写真。

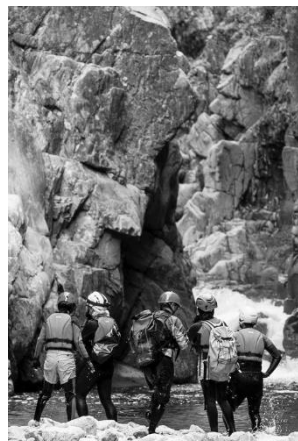
調査は水中メガネで川底を覗き、たも網で捕獲して確認した。さんけんからは本宮芳太郎君を中心に参加し、調査の手法を学んだ。指標の魚をイシドジョウ、カジカ、アカザとし、主に環境省絶滅危惧I Bのイシドジョウの分布を探った。調査の中でスナヤツメが発見され、一九五六年以来の確認となった。



調査は水中メガネで川底を覗き、たも網で捕獲して確認した。さんけんからは本宮芳太郎君を中心に参加し、調査の手法を学んだ。指標の魚をイシドジョウ、カジカ、アカザとし、主に環境省絶滅危惧I Bのイシドジョウの分布を探った。調査の中でスナヤツメが発見され、一九五六年以来の確認となった。

## 圧巻爽快 姉妹滝・竜ノ口 沢登りツアー事業化へテスト実施

さんけんが新事業として企画している「シャワークラ イミング（沢登り）」を八月十八日と二十四日の両日、長淵—姉妹滝間でテスト実施した。探勝路からは見られない三段峡の迫力を伝えるツアーの開



発が狙い。一日目は沢登りのベテラ r e m a 社の社員四人が研修で指導し、本宮炎理事長と本宮宏美事務局長が挑戦。コース選定や安全管理のアドバイスを受けた。二日目は小林久哉副理事

「ふるさと基金」事業  
「未来につながるふるさと基金」(公益財団法人リパブリック財団)の助成によるゴマシジミの保全活動を深入山で実施した。八月二十二日に生息調査、三十日に写真教室を開催。西中国山地自然史研究会の佐久間智子さんが深入山の草原の特徴を解説、保全の意義を学んだ。大人は草花観察、子供は虫を採集し、専門家が同定した。

## 市間山—立岩山間を縦走 風力発電予定地の植生学ぶ

大規模風力発電が計画されている市間山—立岩山間を八月一日、立岩周辺の植生に詳しい広島県文化財保護審議会委員の吉野ブナの二次林を歩き、立岩山

頂までを縦走した。以前の調査を基に希少種をリストアップしている吉野さんは、「立岩—市間山は大きな山塊なので、貴重な種が多数出現する可能性がある」と、建設予定地一帯の重要な指摘をした。

## けん塾 川遊び体験とPR動画撮影 新型コロナウイルス感染症影響で内容変更

今年から開催予定だった「さんけん自然塾」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、内容を川遊び体験とPR動画の撮影に変更した。

## 南峰と歩く

### 丸淵(まるぶち)

### 景観は峡内ミニチュア版の感

三段滝横の急坂を登り切ったから二百ほど進むと二本の山桜が淵にはみ出し、木札が懸かる。丸淵である。高低差なく縁の岩盤に降りられ、休憩や弁当を広げるのにおあつらえ向きである。規模は小さいが対岸の峭壁は耶源、淵に落ちる

流水は竜ノ口、岩盤は石樋に似て、峡内のミニチュア版といった感じがする。八幡川は雨後でなくても常に少し濁りがある。南峰は「やや赤色を帯び」と記している。八幡湿原の鉄分の影響らしい。一九五七年の樽床ダム完成後から川は著しく汚濁し、悪臭を放つまでになった。

結果、湖底近くの水を昼間だけ流していたのを、表面水の終日放流に変更した。八年

### ダムで清流台無し

熊南峰は「二帯の林層の美なることは峡中第一」と賛し、岩壁下のえぐれた様子を「奥深く何物かの潜め

### 世論が行政動かす

「やや赤色を帯び」と記している。八幡湿原の鉄分の影響らしい。一九五七年の樽床ダム完成後から川は著しく汚濁し、悪臭を放つまでになった。結果、湖底近くの水を昼間だけ流していたのを、表面水の終日放流に変更した。八年

## アフターコロナの地域観光で初会合

みずほフィナンシャルグループなどが設立した「Coin基金」の助成を受けてスタートした「アフターコロナの地域観光」について協議する初会合が八月二十四日、町役場やさんけん、町内事業者ら十四人が参加して開かれた。今後、町の観光やモニターツアー、地域活性化プランなどを話し合う。